

令和6年度 流山市立おおぐろの森小学校 学校評価について

【学校評価の考察】

調査の結果から、「満足」と回答されたものを「5」、不満と回答されたものを「1」として得点化した場合、保護者、児童、教職員すべての平均が4以上と回答された質問は18項目あり、概ね良好な結果となりました。本校の学校教育目標である「未来を創り出すわたし！ 見る人からつくる人へ！ みんなでつくろう豊かな未来！」のもと、おおぐろの森小スタイルを積み上げてきた教育活動に、一定の評価をいただいたと考えております。また、昨年度と比較すると多くの項目で値が高くなり、今年度の学校体制や教育環境、指導内容等について、昨年度からの改善が生かされたものと考えられました。一方で、昨年度よりも値が下がった質問項目もあり、引き続き改善が必要な点もあることがわかりました。結果を基に早速検証し、今後も学校教育目標の達成に向け、教職員一丸となって取り組んでまいります。ご協力ありがとうございました。

（1）学校内での児童の様子について＜項目1・2＞

児童が学校へ登校することが楽しみになるよう、日々教職員が指導支援を行ってまいりました。教職員は児童一人ひとりに対してたくさんの称賛をし、教室での生活に安心感と所属感、存在感を感じさせられるような声かけ等を行ってまいりました。また、学校行事等の諸活動についても、児童の心身の成長に真に有効なものを精選しながら、適切に実施してまいりました。教育活動全体を通して、児童一人ひとりが友達と関わりながら、思いやりの心の育成やコミュニケーション能力の向上といった人間性の育成を図れるよう指導を行い、学習については、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の三観点の評価し子ども達にどういった力が身に付いたかを、教職員は日々教材研究を行いながら指導の改善を行ってまいりました。

質問の結果について、質問1の「児童は楽しく学校に通っている」については保護者様からは4.5以上の評価をいただきました。また、質問2の「児童は授業内容を理解し、楽しく授業を受けている」についても同様に昨年度の結果を上回りました。児童や教職員も同様に昨年度の値を上回っていることから、一定の評価ができたと考えられます。今年度は、千葉県造形教育部会研究発表大会を本校を主会場として行いました。県内の先生方等が約200名来校され、実り多い研修を行えたものと捉えています。本校も図画工作科に焦点を当て、研修を行ってまいりました。これからも教職員が個々の授業力を高め、児童一人ひとりに確かな学力が定着し、学校が毎日楽しく通えるよう、授業改善に取り組んでい

きます。

(2) 学校外での本校児童の様子について <項目 3・4>

あいさつやマナーについては、教員が道徳科の時間等を用いて指導を続けているだけでなく、生活委員会等児童が主体となり、あいさつ運動を行うなど啓発運動を行いました。

質問3の「児童はきちんと挨拶ができている」については、児童の結果は昨年度と同等でしたが、保護者の結果は若干下がっていました。一方教職員の結果は上がりましたが、まだ改善の余地がある結果と捉え、進んで挨拶のできる児童の育成に努めていきます。

質問4の「児童は地域でマナーがよい」については、保護者の結果は昨年度に比べ下がりました。児童や教職員については昨年度より改善されましたが、質問項目全体の中では、値が低いものとなっています。地域での生活におけるマナーについては、道徳科や学級活動を含め、学校でのあらゆる教育活動を通じて、指導を行ってまいります。また、学校内での姿が地域の姿にも生かされるよう指導を重ね、今回の結果を各家庭や地域と共有し、学校と家庭と地域が一体となって子ども達を育てていけるように、連携の強化を図ってまいります。

(3) 教師の支援について <項目 5～10>

質問6の「教師は児童の個性を認めている」では、保護者、児童、教職員ともに4.5以上の評価となりました。これからの社会は、個々の多様性を認め、互いに尊重し合うことが重要となってきます。学校現場においても、未来を担う子ども達について、一人ひとりの個性の伸長のため、画一的な指導ではなく、個々の特性に応じた声かけや指導支援を引き続き行ってまいります。また、本校の学校教育目標でもある「みる人からつくる人へ！」を具現化するための一環として、教職員と子ども達が協力し、学校行事等においてくろもりチャンネルの動画作成に取り組んでいます。また、日々の教育活動においても個々の子どもを大切にした指導を心がけています。様々な活動を通して、子ども同士が協力し達成感や満足感を感じる体験を重ねたことで、一人ひとりの考え方や感じ方が違っていても個性として認め、自他を大切にできる心の育成につながってきたものと考えられます。今後も、個々の個性を認め、子ども達一人ひとりが「学校に行くのが楽しい」「友達と会いたい」等意欲や充実感をもって生活できるように努めていきます。

質問7の「教師は困ったとき、相談しやすい」について、昨年度より保護者、児童、教職員について値が上がった項目の一つです。児童が日々行う心の天気の結果を教職員が確認し、必要に応じて声かけや面談等を行ってまいりました。心

の天気については、児童が気持ちの状態を天気の記号を用いて担任に報告するシステムとなっていますが、毎日全児童が取り組めるように、実施する時間等を工夫するなど、教職員も意識を高く持って取り組んでいます。また、児童から相談事等が入力されている場合は、担任が個々の児童に返信を行うなど、タブレットを介してもつながりを持っています。いじめアンケートを定期的実施した際には、児童と面談を行うなど、個々の児童を大切にしたい取り組みを続けてまいりました。今後も児童一人ひとりを大切にしたい教育活動を行ってまいります。

(4) 学校について <項目 11～21>

質問 11 の「学校の教育への姿勢や雰囲気はよい」では、保護者、児童、教職員ともに 4.4 以上の評価となりました。開校から 4 年目となり、学校という既成概念にとらわれることなく、校長の指導のもと児童や地域の実態に応じた教育活動を展開できるよう努めてまいりました。また、保護者の願いや地域の事情に応じ、かつ個性の伸長や確かな学力が身に付くように、本校の特色を生かした教育活動を行ってまいりました。いつでも学校に参観可能であるといった開かれた学校づくりの活動に一定の評価をいただいたと感じています。昨年度の結果と比較すると値が下がったことについて分析を行い、今後もさらに教育への姿勢や雰囲気の向上を目指し、改善について検討してまいります。

質問 14 の「学校は保護者と協力して学校運営をしている」については、昨年度より結果の値は上がりました。学校支援コーディネーターとも連携し、必要に応じて保護者の方にボランティアを呼びかけ、プールボランティアや町たんけんボランティア、校庭の除草ボランティアにご参加いただける等、たくさんの方々にご協力いただきました。くろもり会の会員も 600 世帯以上と、多くの方にご理解ご協力いただき、学校運営を行ってまいりました。また、日頃の感謝の意を込めて、夏休み中に校庭を開放して手持ち花火会を行う等してまいりました。今後も本校の実情として、共働きの世帯が多い等、地域の実態を考慮し、保護者と協力して学校運営をしてまいります。

質問 20 の「学校行事は適切に実施されている」については、保護者、児童、教職員ともに結果の値は昨年度より下がっていましたが、児童、教職員ともに 4.4 を上回る高い値を継続しています。学校行事については、児童の心身の成長に真に効果的なものを検討し、行っています。全校が一堂に集まり行う集会等のものは、1000 人近い児童が移動することでかかる時間が多いため、今年度も動画を活用して行いました。体育的行事や儀式的行事等といった学校行事については、児童一人ひとりの教育的効果が高いものを検討し、取り組んでいます。本アンケートの自由記述欄において、保護者から運動会の全校一斉開催に関するご意見を多くいただきました。意見の内容として、全校で開催することにより、

高学年の姿を低学年の児童が目にする機会となり、高学年への憧れが生じてより良い成長につながることや、全校で取り組むことによる盛大な運動会を児童に経験させたいといったものが主でした。全校で開催する運動会により、児童への教育的効果もあると考えられます。一方で、本校が行っている学年運動会ではないことで、児童一人ひとりが活躍できる時間は、かなり減少してしまいます。1000人近い児童が同一日に運動会を行うためには、児童一人が競技を行える時間を縮小することや競技種目数を1つないし2つ程度にする必要があります。また、複数学年が校庭で待機することはできないため、競技を行っている学年のみが校庭にいて、他学年は校舎内で学習を行う必要があります、児童の移動に伴って保護者も校庭から移動をお願いする必要が生じます。全校で同一日に開催する運動会では、このような対応が必要となり、児童一人ひとりを大切にした運動会を実施できないと考え、学年運動会として行っています。実際に児童の声を聴くと、大切な思い出となったことや、大変有意義だったといったものがほとんどであり、児童にとってかけがえのない運動会になっていることが推察されます。以上のことから、本校では学年運動会を行っている状況です。

(5) 学校からの情報の活用について <項目22～24>

学校からの情報についてはスキットメールやホームページを活用し、発信してきました。ペーパーレス化を図り、保護者様にとって必要な情報がWEB上で閲覧できるよう、学校だよりや学年だより等を送信し、スマートフォンがあれば見たい時にいつでも確認できるようにしました。学校で生活している児童の様子についても、適宜ホームページにアップしたり、児童に人気のくろもりチャンネルもホームページにアップしたりし、学校の情報を発信してまいりました。今後も学校からの情報を適宜発信し、より地域保護者に開かれた学校となるよう運営してまいります。

(6) 学校からの業務改善について <項目25・26>

学校における働き方改革を進めることで、教職員が子どもと向き合う時間を確保できるよう努めてまいりました。多岐にわたる教職員の業務について、精査整理を図ることにより、教員が教材研究にかける時間や、子どもの状況等を適切に把握するための時間を確保することで、質の高い教育活動の実現と、業務改善を図ってまいりました。教職員の回答結果として、4.6を超える結果となったことについて、一定の評価ができるものと捉えております。教員の重要な業務の一つである、教科指導および児童一人ひとりを大切にした学級経営に充てる時間をしっかりと確保できるように、今後もさらなる業務改善に努め、児童がより有意義な学校生活が送れるよう、努めてまいります。